

## 第1回 乳幼児期の教育・保育のあり方検討委員会 会議録要旨

開催日時 令和2年12月10日（木曜日）18時から19時45分まで

開催場所 世田谷区役所第2庁舎4階 区議会大会議室

出席者 浅野委員長、知久副委員長、篠原委員、宮崎委員、無藤委員、山下委員、谷本委員、寺村委員、柄木田委員、池田委員、山本委員、大澤委員、中西委員、本田委員、北村委員、毛利委員、隅田委員、山路委員、鎮日委員  
※22名中19名出席

### 1 挨拶（浅野委員長）

### 2 自己紹介

※資料2（名簿）の順で自己紹介

### 3 乳幼児期の教育・保育のあり方について（資料1～3-3）

- ・資料1について、浅野委員長より説明のうえ、副委員長に知久委員を指名
- ・資料3-1～3について、事務局より説明

### 4 「（仮称）世田谷型『乳幼児期教育・保育スタンダードカリキュラム』」について（資料4-1～3）

#### （1）区の乳幼児期の教育・保育の取組み等（乳幼児教育支援センターを中心に）

- ・資料4-1（1 背景～3 区の乳幼児期の教育・保育の取組み）、資料4-2について、事務局より説明

#### 【質疑・意見交換】

委員 幼児教育環境支援専門員（アトリエリスタ）の記載があるが、世田谷区には既にアトリエリスタが存在しているという認識でよいのか、育成しているのか。

事務局 既に1名であるが活動をしており、幼稚園・保育所で子どもたちが文化・芸術を体験する環境づくりの観点から活動をしている。今週も区立中町幼稚園で活動している。今後は、資質・能力を持つ方々を育成して活躍していただきたいと考えているが、芸術的な資質・能力を要する部分があるので、急激には増えないと思うが拡大していく方向でいる。

委員 アトリエリスタは世田谷区が独自に養成できるものではないと思うが、NPO法人等に依拠していくということか、それともそこと連携して、世田谷区独自で人材を育成していくのか。

事務局 区でアトリエリスタを養成するというのは不正確。芸術的な資質に加えて、子どもたちへの影響を考慮しながら環境を構成できる能力がある人は限られている。今回、運良くそういう方との縁があったのでお願いしている。今後はより広く幼

稚園・保育所を巡っていただいて体験の機会を拡大していくとともに、芸術・文化体験を通じた教育・保育を理解し、各園で実践できるような現場の先生方を養成していきたい。

委員 乳幼児教育支援センターの先行事例は全国に数十あるが、運営や組織の仕方は様々である。都道府県レベルで設置する場合は規模が大きいうえに、市区町村が下に一段入るので、市区町村レベルで設置するのとは意味が違う。市区町村で設置する場合も、北海道のように面積が広いところと世田谷区では違うので、世田谷区として独自の構想を持つのはよいと思う。

そのうえで、アトリエリスタの話ともつながるが、アドバイザーの位置付けも様々ありうる。例えば区の専任の職員でやる場合もあるし、嘱託、非常勤、あるいは現場の職員や退職者を中心にやっていくなど。人数も、数名で回っていく組織もあるし、毎年20～30名養成を続けて100～200名になっていく場合、センターに職員が数名いてさらにその下にアドバイザーが数名いてさらにその下に…という組織もある。

もう一つイメージしておくべきことは、どのくらい世田谷区にある幼稚園・保育所・認定こども園全てに関わろうとするか否かということ。今すぐにニーズがあるものではないのでやたら増やしても意味はないのだろうが、うまくいきだすと、うちの園に来てくれとか、研修をしてほしいといった要望が多くなり、2～3人いても回り切れなくなる。積極的にニーズを広げてそれに答えていくべきだと思うが、そのやり方。園に訪問して助言者としての役割を果たすことを中心とするのか、研修中心にしてそれをオーガナイズする人になるのかで、アドバイザーの仕事の中身のイメージが変わると思うので議論していただきたい。

もう一つ、公私立の枠を超えた研修について、今は公私立、幼稚園・保育所・認定こども園で似た研修をそれぞれでやっている。例えば保育所を中心としてキャリアアップ研修が広がっているが、中身が重なる部分が出てくる。免許更新講習や10年次研修などもいろいろ区でやっていると思うが、整理とか相互乗り入れは、文科省や厚労省も検討しているが、文科省や厚労省がこうしなさいというものでもないで、自治体側の工夫が必要。それとともに研修を各園の全員にどれだけ広げるか否か、広げたいと思うかどうか。集合研修では各園の代表が来る形になり、それも意味があるが、全員に聞いてもらいたいとなると集まる形ではなくリモート研修の活用も一つの方向である。そうすると、リモート研修をやれるだけの設備と人材がセンターになればいけないし、幼稚園や保育所の実態に即して考えると、どの園でも動画を見られる設備があるかどうかなど、いろいろ考える必要がある。

家庭教育の支援を重視していくのだとすれば、これについては全国どの地域でもうまくいっていない。なぜかという、そういう支援が必要な困難を抱えた家庭ほど講演会等には来ないので、そこが難しい。行政側から手が届かない部分にどうアクセスを可能にしていくか。試みとしてはネットを使ってスマホで見られる

情報提供や、Q&Aの作成、掲示板等の活用などが考えられる。もう一つは妊娠期や乳児の小さい時期は産科・小児科が関わるのでそのあたりと連携してやっていく、これは福祉部門との協力が必要になる。子育てに熱意がある方に対しては講演会は有効だと思うが、困難を抱えた家庭等を考えると違うやり方を入れなければいけない。何をめざすかによると思うので、ぜひ検討いただきたい。

事務局 アドバイザーについては現状4人いる。外部からということもありうるが、今のところ退職された園長を中心に、各幼稚園・保育園の支援という形で回っている。こういう状況下なのでなかなか派遣することができていないが、これからまた徐々に進めていければと思っている。

研修については、公私立、幼稚園・保育所等の枠を超えた合同研修を掲げているので、今後（仮称）スタンダードカリキュラムができた暁には研修を通じて現場に広く浸透させ、研修を充実させていきたい。

リモートの話だが、幼稚園の現場はリモート研修ができる動画配信環境が十分ではない。その点についてはハード面、予算等の制約があるが検討を進めていって少しずつでも対応していきたい。

家庭教育の支援については、どこをターゲットにということ曖昧な部分があるので、手法を含めて今後検討を進めていきたい。

委員長 GIGAスクール構想で、タブレット1人1台をめざして区でも整備進めている。家庭でも学校でも使える環境整備として進めている。小中学校では保護者とのやり取りで一定程度使えるかなと思っている。

委員 教員研修も1か所に集まって行うのが難しい状況なので、リモート研修をたくさん入れている。学校の通信環境は今年度中には整備されていく予定である。教育総合センターでは、研修が今後リモート中心になっていくだろうということでスタジオを設置するので、そこから研修の内容を発信できるようになる。園の受信環境という課題はあるが、幼稚園教諭や保育士にもぜひスタジオ機能、通信機能をフルに使ってほしい。

委員 (仮称)スタンダードカリキュラムに関わる話になるが、(資料4-2の)「3(2)乳幼児の資質・能力を育む環境づくり」のところでアトリエリスタが出てきている。このこと自体はユニークな取り組みだと思うが、ある教育理念に基づいた一つの活動ということになるので、これをスタンダードに入れるとなると、イタリアの一つのモデルを区としてスタンダードとすることを前提に出すことになる。幼稚園、保育園からこれをスタンダードとしていいのかという議論が出たときに、区としてどうとらえていくのかをきちっとしておかないと、ある1つの理念に傾倒したものを提唱することになるので、十分に気を付けていかなければならない。もう一つ、「具体的な取組」の一番目に「ICT教材活用」とあるが、研修にICTを使うのではなく幼児教育にICTを活用すると読めるがどちらなのか。ICT教材の活用が項目の1番目に出てくることが、いやらしい読み方をすると、区はそちらに舵を切るのか、本来国が大切にしている「遊びを通して」というも

のが消えていくのではないかと見える。小学校以上の教育とICTの関係は分かるが、これを先に出すと、本来幼児期の教育に大切にしなければいけないものを区はどう考えているんですかと問われる。

この2点がイメージ図を見た中で危惧しているところである。今回答えを求めることはしないが、(仮称)スタンダードカリキュラムにも関わることなので、言葉の使い方は慎重になるべきだと思っている。

委員長 アトリエリスタのことで説明をさせていただくと、区はレッジョ・エミリア市に視察等に行っているが、金科玉条のようにやるつもりはなく一つの模索として考えている。

ICT教材の活用については議会からも意見をいただいているところだが、遊びを通してというのは基本で、幼保ビジョンにもそう書かせていただいている。

ICTを子どもたちが色々なことに興味を持つための一つの道具として使える可能性があるかという模索である。お話をいただいた、一番先に書いてあることがよいのかを含めて十分検討させていただきたい。ICTは道具であって目的ではないので、活用できるか否かの検討という点でご了解いただきたい。

委員 厚労省では数年前から保育園のICT環境整備に予算を付けているが、それは主にマネジメント、出欠とか安全管理の面に対してのもの。幼稚園教育要領・保育所保育指針では正面切ってICTとは書いていないが、排除しているわけでもないという微妙なスタンスだ。「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」の何番目かに「情報」という言葉が入っている。情報というのはイコールICTではなく、図鑑で調べるのも情報だが、ICTを決して排除してはいない。ICT環境は急速に進化しており、子どもがICTを使うというのはドリル的なものではなく、クリエイティブな使い方がありうる。おそらくこれからの数年で特に4・5歳だが、園の中でどう使うか、使わないのかについて検討が必要だと思う。先日、国立教育政策研究所からOECD9か国の保育環境、保育者の働き方について比較調査の結果が出た。それらを見ても4・5歳の幼児がICTを使うのは日本以外では当たり前に行っている。日本は極めて例外的に国や自治体の方針として入れていない。それが間違っているということではないが、どうするか即座に考えなければならない。その検討が10年先では遅すぎるというのは、小学校にGIGAスクール構想があることから明らかだ。区が提唱しなくても家庭での使用は急激に広がる。それに対して、家庭でやるから、小学校でやるから園では使わないという考えもあるはずなので、ICTを義務化しなくてもよいと思うが、位置付けを考えるべきだという気はしている。

アトリエリスタはレッジョ・エミリア市の保育で中核的な役割を果たしており、美術に詳しい人がなっているが、幼児期に美術教育をしようというのとは違い、保育における子どもの学びと広い意味での美的感覚の育ちが一体的だという考え方である。小学校でいう図工にあたるものではなく、ダンスをやってもいいし、音遊びをしてもいいし、いろいろな活動を広げていく。そういうことが理解でき

る専門員を育成して派遣することが望ましい。

日本でアトリエリスタというカタカナを使うことがいいのかは疑問がある。保育関係者は常識のように知っているが、イタリア語なので保護者はまず分からない。アトリエだから絵描きのアトリエを作るのかな、図工室を作るのかなと誤解されることがあるので、もう少し保育にふさわしい言い方を世田谷区なりに考えたほうがよい。ついでに言えば、スタンダードカリキュラムのスタンダードは個人的にはきつい言い方だと感じる。

委員長 アトリエリスタは今はレτζジョ・エミリアで実際に活動していた方をお願いしている。今はそうだが、その方にずっとお願いできるかという。それからカタカナでよいのかも、検討させていただきたい。

委員 研修について、いろいろな研修が増えているのは確かだが、職員が参加しにくい子どもたちがたくさんいる時間帯に設定されると、1人行けるか2人行けるかという状況で、全員に受けさせるのは難しい。研修の具体的なやり方として、全員が受けるチャンスがあるやり方を考えていただけると助かる。スタンダードや指針等を作って研修をやっていただいても、なかなか広がらない理由はそこにあると思う。

もう一つ、アドバイザーで元園長の方が回って来られることが多々あるが、来られる方によって言われることが違うことが気になる。資格とか、スタンダードはこうだというのを作ったうえで回っていただけると助かる。

事務局 研修に参加する時間帯や方法は課題だと思っている。リモートなど多くの方が参加しやすい方法、時間帯も保育のコアでない時間帯にするなど、今後の検討課題である。

アドバイザーについては、現在も回る前に共通認識を持つための研修会を開いている。(仮称)スタンダードカリキュラムを整備した後は、ある程度アドバイザーの支援方針として最低限のものが出てくるのではないかとすることも期待して検討していきたい。

委員 研修は大事だが時間をどう確保するか、参加中に誰が子どもを保育していくのかという問題がある中で、体制と研修が一体的に動く仕組みづくりを考えていただきたい。研修だけ先に作っても、園長が代わりに保育しているようだと園の機能がうまく回らない。

また、やたら研修をするのではなく、先生方のキャリアステージに応じた研修を組み立てていかないといけない。初任の先生が身に付けたい資質・能力、中堅の先生が身に付けたい資質・能力、管理職に身に付けてほしい資質・能力は違うので、十把一絡げではなく、同じテーマでもキャリアによって学び方が違う。初任の先生に対する目的や目標は園でも共有して、その共通の資質・能力を園長の支援や指導で育てていくというようにリンクしていかないと、一方的に行政が進めても育たないと思う。

保育所・幼稚園は規模が様々なので、自園で目の前の子どもをどうしていくかと

いう園内研修を強化していかなければいけない。その時に園長がいつもリードするのではなく、園長の指揮・指導の下で研修計画をコーディネートできる人材を育てていく必要がある。そのためにも、現場の質を高めていくために人材を育てていくことにウエイトを置いた研修のあり方をしっかりと構築して体系化してほしい。

名称はまた今後ということだが、スタンダードカリキュラムとは行政がこうしなさいというものを示して「やりなさい」というものではなく、園の特徴・特色に応じて、どうすればいいかというやり方や手法について提案してもらえるとということであれば、園はそれを参考にしながら、我が園の教育・保育をどうしたいか考えられるので、取り組みは良いことだと思っている。

事務局 いただいたご意見を踏まえて、研修の効果的な実施方法を乳幼児教育支援センターの開設に向けて検討していきたい。

## (2) (仮称) スタンダードカリキュラムの位置づけ・基本的考え方等

- ・資料4-1 (4 (仮称) スタンダードカリキュラムの位置づけ～6 (仮称) スタンダードカリキュラムの実践・展開 (イメージ))、資料4-3について、事務局より説明

### 【質疑・意見交換】

委員 カリキュラムという言葉を使わないほうが、特に幼児期に関しては適切だと改めて思った。もともと持っている語源が誤解を生むので、さっさとこの言葉はやめて、何を伝えたいのかということだけにしてはどうか。いくら説明されても、カリキュラムとあったら教育課程だと思ってしまうので、そうでないのならこの言葉は取っ払って違う言葉にされたほうがいいと思う。

教育総合センターは今後データベース機能として大きな役割を果たすはずなので、手軽に情報にアクセスできることが求められてくる。しかし、公立幼稚園のインフラは最低で、先生たちが自由にこれらを使って学べる環境がない。各園同士や、小学校との連携を取れるインフラもない。工夫しながらやってはいるが、せっかく集合研修を減らしたりと様々な工夫をしているのであれば、インフラを徹底的に整備していただかないと。少なくとも公立幼稚園と公立保育園は同じものが整備されなければならないはずだし、小学校、中学校も同じものが整備されていくことで連携が広がる。連携という御旗だけ掲げても、手段が整わないかぎり、現場を預かる園長としては絵に描いた餅である。

事務局 カリキュラムという言葉には、様々ご意見をいただいているので名称を検討していきたい。インフラの話は、区立幼稚園はおっしゃる通りの状況がある。我々も進めていきたいと思っているが、予算の問題や、手続き的に難しいこともあり、うまくいっていない部分もあるが努力していきたいと思っている。

委員 保育所では「世田谷区保育の質ガイドライン」が作られている。幼稚園では「世田谷版アプローチ・スタートカリキュラム」を委員の先生方が時間をかけて作っ

ているが、これがどれだけ現場で使われているのだろうか。公立では活用されているが、今回公私を問わずというところが非常に重要。これまで世田谷区が作ってきたものが私立の幼稚園・保育所・こども園でどれだけ活用されてきたのか、これから活用が期待されるかという視点で、(仮称)スタンダードカリキュラムを考えていく必要があると思う。

(仮称)スタンダードカリキュラムの位置づけの図を見たときに、国や区の考えてきたものは書いてあるが、これらと現場との結び付きが見えない。一番大事なものは、いかに世田谷区の子どもたちが豊かに育っていくかで、そのためのものを考えようとしているのだから、ここに公私を問わない現場が書かれていた方がつながりが分かる。先ほど乳幼児期で大切にしたいポイントを考えていくとあったが、少ない人数で一生懸命考えるのではなく、公私を問わず現場からいろいろな考えを出してもらって、どれだけ現場の意見が反映できるのかを考えながら位置付けていきたいと思った。

事務局 現場との結び付きが見えるイメージ図なども今後作成に向けて検討したい。現場の声については、作業部会を設けて公私を問わず幼稚園や保育園の現場の先生に参加してもらって、ご意見いただきたいと思っている。

委員 ここまでの議論を踏まえると、乳幼児教育支援センターが現場を通じて子どもたちに何を果たすことを世田谷区として期待するのか、それにあたって(仮称)スタンダードカリキュラムが何を示すことでそういった機能を果たそうとしているのかが委員からの質問として挙げられていたと思う。ICTやアトリエリスタの位置づけも全体像が見えない中で具体が書かれていることに対して、改めて一から考えようという方向で議論いただいているものと思う。そういう意味ではこの会は、現場の実践はそれぞれでされているが、区の総体として一緒に考えられることは何なのかを考えていく会議になるのではないかと考えている。

環境整備なくしてできないのは勿論そうだが、物は揃ったとしてもどこを向くのか、話し合うべきことは何なのか、例えば先ほど園内研修、資質の向上、研修のあり方をお話しされていたが、そこで高める資質・能力のポイントはどこなのかといったように、現場の先生が共通で認識できるようなポイントの示し方が重要だと考えている。

ICTの位置づけの仕方は園によってさまざまだが、保育所保育指針や幼稚園教育要領の考え方の根底にあるのは子どもの生活だ。子どもの生活の中にICTが当たり前に入ってきているこの時代においても大切にしなければいけない体験と、ICTの活用のバランスを見るとき視点の揺れていると、ツールに先走ったり名称に縛られた議論が先行してしまい、技術に触れるのが大事だといったメッセージにミスリードしてしまうようなことは避けるべきだと言っていたように思う。

本日は議論の時間というよりは気になった点を挙げてもらったが、有識の先生方は全国状況をよく知っているので、指針・要領に基づいて保育・教育を進めて

いく時にこの点を外してしまうと議論が拡散しやすいとか、忘れてはいけないことはここだとか、具体的に示すレベル感はどこかなどを具体的に議論していただく場になると、位置付けや示し方がすっきりするのではないかと。意見のいただき方についても事務局として検討していただきながら次回は進めてほしい。

名称については今回決めるということではないと思うが、抽象的でもこういうものを入れたほうがよいといったキーワードがあれば、名は体を表すので、今の時点でアイデアや方向性をお持ちならご発言いただければと思う。

事務局 今回は初回ということで、これまでの取組みや全体像、(仮称)スタンダードカリキュラムの考え方について説明し、自由に議論していただく形になった。次からは論点を絞って集中的な議論ができるように尽力していきたい。

スタンダードカリキュラムに代わる名称について、ヒントになるようなものがあれば、ぜひ本日皆さんにもご提示いただきたい。

委員 先ほど研修のところでは提案するのを忘れていたが、研修は講師を招聘してやるものをイメージしがちだが、研修のツールを開発する手法もある。既に文科省や厚労省がインターネットでいろいろな研修を動画配信している。園内研修ではなかなか講師を招聘できないし、自分たちで勉強するにしても園に専門家はいないので、例えば今日は特別支援の発達障害について学びたいといった時に、オンラインの研修教材があればそれを視聴して、自分たちの園の状況にあてはめて園内研修ができる。既にあるものは使えばいいし、ないものは作ればいいので、乳幼児教育センターの機能としてそういった研修教材の開発や紹介ができれば、現場を支援する取り組みになる。集合研修ももちろん大切だが、一方で園が主体的に課題に応じた園内研修ができる研修教材を提供する。そして、そのためには研修をコーディネートできる人材の育成が必要になる。保育所ではいろいろな役割の先生が機能しているので、一部だけが分かっていたらよいものではない。集合研修の実施と園内研修の教材の提供の両方をセンターの機能として考えていけるとよい。

事務局 機能検討に際してのご提案ということで、参考にさせていただきます。

委員 資料4-3に、スタンダードカリキュラムとは何かを抽象的だが記載している。事務局レベルで考えた際には、「世田谷区乳幼児教育・保育基本指針」とか、自分で言っていて役人的だと思うが、スタンダードカリキュラムをカタカナを使わずに表現するとこんな感じかなという議論はしていたのだが、ご意見いただきたい。

委員 アクティブラーニングも非認知的能力もそうだが、子どもが主体という考え方に立っている。そうするとこのビジョンにも子どもが「自ら育つ」、育てるのではなく育つんだというニュアンスが入ったほうがよいのではないかと。

委員 他の自治体で類似のものを作っているところがあるので参考にしてほしい。いろいろなやり方があるが、スタンダードカリキュラム、名前は別にしても、それを一個作ってそこに全部を入れるやり方もあるし、基本指針のようなものは簡潔に紙1~2枚程度にして、その次に年齢別のポイントを示して、さらに後半が実践事



例という3部構成にするとか、後半は別の媒体で出すとか、必ずしも一体で示す必要はない。特に実践事例については、別の形にした方が入れ替えが容易になる。国の検討がどうなるか分からないが、5歳児義務化、小学校の前倒しという議論があるにはあるわけで、この先10年の大きな動きにも対応しやすくなると思う。

委員 名称の話は、本日いただいた意見をもとに、次回までの間に先生方とキャッチボールしながら、いくつか案を作る流れでいかがか。

委員 (仮称)スタンダードカリキュラム、カリキュラムではないと思うが、乳幼児期に一番大切なことがメインにあって、そこから子どもたちが成長していく、子ども主体でというところを外さないで考えられるとよい。それに付随して環境が大事だとか、そういったことは色々と議論されているし、園内でも研修しているので、現場の職員の生の声を入れながら、私たちが何を大切に保育しているのか、現場の職員が見て「ああそうだよ」と言えるようなものができるといいなと思う。

事務局 事務局で議論して、案なども考えながら次回ご議論いただきたいと思う。

委員長 ありがとうございます。

次回の予定としては、(仮称)スタンダードカリキュラムの基本的考え方・方向性(素案)、(仮称)スタンダードカリキュラムの構成(素案)をお出しさせていただきたい。資料4-3について意見があれば事務局までお寄せいただければと思う。いただいた意見をふまえて素案を示したい。

## 5 その他

- ・第2回は、1月26日(火)18:00もしくは18:30から、教育センター3階おぐまで実施予定。
- ・次回はオンラインでの参加も対応したいと思っている。
- ・参加が難しくなった場合は事務局までお知らせいただきたい。

以上